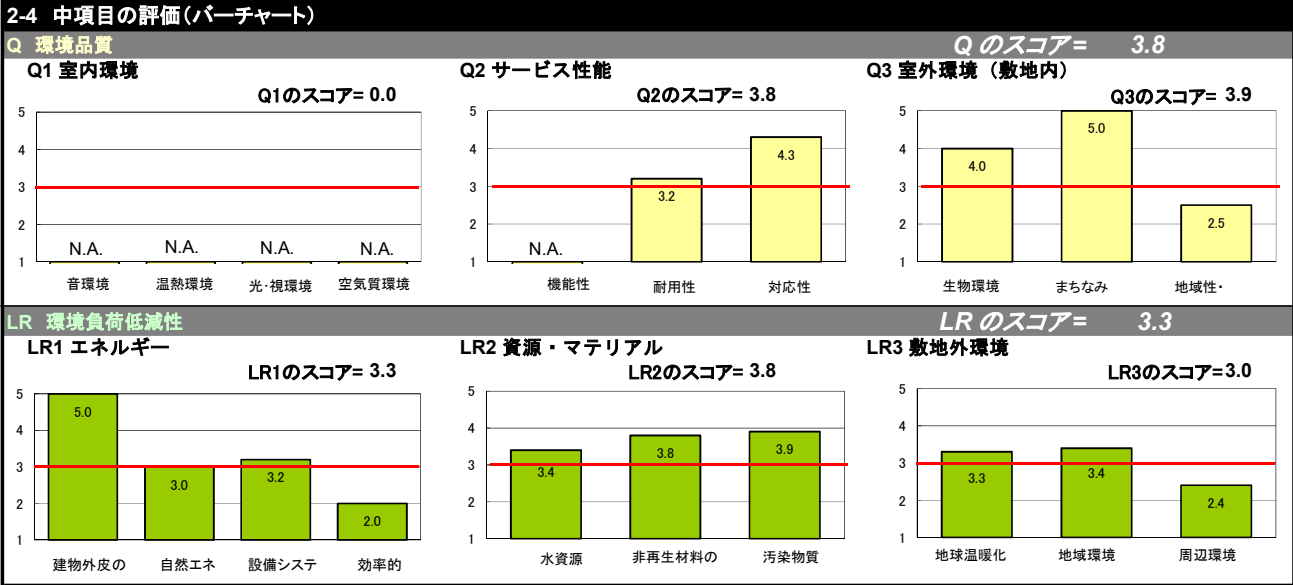
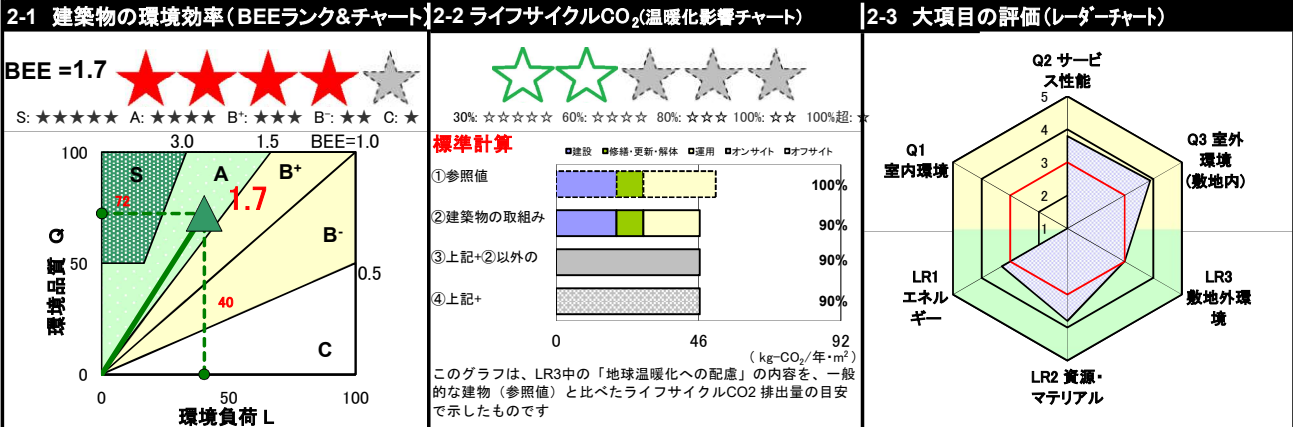


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JX金属株式会社 日立北工場	階数	地上2階
建設地	茨城県 日立市	構造	S造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	33 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年9月 竣工	評価の実施日	2023年12月8日
敷地面積	23,351 m ²	作成者	鹿島建設株式会社
建築面積	7,708 m ²	確認日	2023年12月8日
延床面積	9,499 m ²	確認者	鹿島建設株式会社



3 設計上の配慮事項		
総合		
茨城県日立市に建築される2階建ての工場である。敷地内の既存緑地をそのまま残し、沿道の景観、植生・生態系を保存している。		
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
・評価対象外	・耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・高い階高の確保、積載荷重の割増により、対応性に配慮している。	・空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。 ・高温排熱機器を設置しないことで、温熱環境の向上に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・断熱性能の高い建材を採用し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。 ・LED照明等の高効率な設備機器を導入している。	・節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。 ・リサイクル材やユニット部材の採用により、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	・燃焼機器の使用を避けて、大気汚染防止に配慮している。 ・周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
JX金属株式会社 日立北工場

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.8
Q1 室内環境								
1 音環境				-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		—		-	-	-	-	
1.2 遮音		—		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		—		-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		—		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	-	-	
1.3 吸音		—		-	-	-	-	
2 温熱環境				-	-	-	-	-
2.1 室温制御		—		-	-	-	-	
1 室温		—		-	-	-	-	
2 外皮性能		—		-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		—		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		—		-	-	-	-	
2.3 空調方式		—		-	-	-	-	
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		—		-	-	-	-	
1 昼光率		—		-	-	-	-	
2 方位別開口		—		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		—		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		—		-	-	-	-	
1 昼光制御		—		-	-	-	-	
3.3 照度		—		-	-	-	-	
3.4 照明制御		—		-	-	-	-	
4 空気質環境				-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		—		-	-	-	-	
1 化学汚染物質		—		-	-	-	-	
4.2 換気		—		-	-	-	-	
1 換気量		—		-	-	-	-	
2 自然換気性能		—		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		—		-	-	-	-	
4.3 運用管理		—		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		—		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		—		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				—	0.43	-	-	3.8
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		—		-	-	-	-	
1 広さ・収納性		—		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		—		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		—		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		—		-	-	-	-	
1 広さ感・景観		—		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		—		-	-	-	-	
3 内装計画		—		-	-	-	-	
1.3 維持管理		—		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		—		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		—		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.2	0.50	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		—		3.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		断熱サンドイッチパネル(ポリエステル樹脂塗装)		5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		水性硬質ウレタン系塗床、ビニル壁紙		5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウム鋼板、ポリ塩化ビニルライニング鋼板を採用		5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		—		3.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		—		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		地震・架構用も含め50%以上の割増	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造物・仕上材共に痛めずに更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造物・仕上材共に痛めずに更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出		緑の量の確保や質の確保	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺の街並みと調和した景観を形成	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.7	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m =0.78	3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	—	1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓・節水型便器等を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減		—	3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		—	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル系床材・ロックウール吸音板(給湯室等)、タイルカーペット(エントランスホール等)	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		—	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない建材種別を4つ以上採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤	—	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率90%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		—	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車場の確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			1.0	0.40	-	-	
1	騒音	—	1.0	1.00	-	-	
2	振動	—	-	-	-	-	
3	悪臭	—	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	風害対策に対する要請はない	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

JX金属株式会社 日立北工場

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0	-	2.0	2.0	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	6.0	-	2.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0	-	-	2.0	-	3.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0	-	1.0	-	3.0	3.0	2.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)		
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH
屋光率				
自然換気有効開口面積率				

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収容性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-
コンセント容量	-	VA/m ²	-	-	-	-	-	-	-
天井高	-	m	-	-	-	-	-	-	-
リフレッシュスペース	-	-	レストスペース	-	-	-	-	-	-
想定耐用年数	-	年	-	-	-	-	-	-	-
想定必要間隔	-	30 年	-	-	-	-	-	-	-
想定必要間隔	-	20 年	-	-	-	-	-	-	-
想定必要間隔	-	15 年	-	-	-	-	-	-	-
階高	-	4.65 m	-	-	-	-	-	-	-
壁長さ比率	-	9.0%	-	-	-	-	-	-	-
床荷重	-	20000 N/m ²	-	-	-	-	-	-	-

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	47%	建物緑化指数	0%				
空地率	67%	水平投影面積率	0%	地表面対策面積率	31%	舗装面積率	35%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m		0.70 断熱等性能等級		対象外 相当							
自然エネルギー直接利用量		0 MJ/年㎡		採光を満たす教室数		0.0%		採光を満たす住戸数		0.0%	
				通風を満たす教室数		0.0%		通風を満たす住戸数		0.0%	
BPI/BPI _m		非住宅 0.78 住宅		- 太陽光		.0kW 太陽熱等		.0kW 蓄電池		.0kW	

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%			
特定調達品目	ビニル系床材	エコマーク商品	タイルカーペット、 森林系調剤 特定品目等	-
使用比率	-			
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP) -		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP) ≤3		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP) ≤2090		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		29% 隣棟間隔指標Rw 4.81									
地表面対策面積率		31.0%		屋根面対策面積率		0.0%		外壁面対策面積率		0.0%	
見付面積Sb		1,248㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		158.97 m		基準高さHb		27.5 m	
緑地		7,301㎡		水面		㎡		高反射対策面		㎡	
				保水性対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	